

平成25年1月11日
学校教育政策課

平成26年度福井県公立学校教員採用選考試験（案）

本県では、幼児期から高等学校までの教育を充実し、接続を重視した一貫性のある「福井型18年教育」を進めている。この実現のためには、小学校、中学校、高等学校の異校種の連携を一層推進するとともに、各校種・各専門教科の高い専門性を有する人材を確保することが必要不可欠である。そこで、平成26年度教員採用選考試験において、次のとおり見直しを行う。

- 1 小・中・高等学校・特別支援学校の各校種で、「校種別・教科別」に教員を募集し、各校種・各専門教科等に即した問題を出題
- 2 教員の授業力の更なる向上を目指し、採用後の早い段階で、勤務状況や所有している教員免許状により「異校種への人事交流」を実施する。

■試験実施区分

【現行】

○一括募集

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 ・中学校 ・高等学校 ・特別支援学校 	}	約180名（平成25年度）
--	---	---------------

【見直し】

○校種別・教科別の募集

専門性の高い教員を確保するため、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の「校種別・教科別」に募集し、募集人数を明記する。

<校種別・教科別の募集>

- ・小学校
- ・中学校 … 国、社、数、理、英、保体などの10教科
- ・高等学校 … 国、社、数、理、英、保体などの16教科
- ・特別支援学校

・「小学校」での出願

これまでは、「小学校」教員免許のみ所有している者しか出願できなかったが、「小学校」以外の教員免許を所有している者も出願できるようにする。

○併願の新設

2つの校種を併願して受験することができる。

<併願パターン>

- ・「小学校」と「中学校の1教科」
- ・「小学校」と「特別支援学校」
- ・「中学校の1教科」と「高等学校の1教科」
- ・「中学校の1教科」と「特別支援学校」
- ・「高等学校の1教科」と「特別支援学校」

■試験内容・試験方法

【現行】

<1次選考>

- | | | |
|--------|---|-----------------------|
| ・一般教養 | … | 5教科（国・社・数・理・英）の基礎学力 |
| ・教職専門 | … | 教育原理、教育心理 |
| ・体力テスト | … | ボール投げ、反復横跳び、長座体前屈の3種目 |

<2次選考>

- | | | |
|-----------|---|--|
| ・専門教科 | … | 小学校、各教科（国語、社会など）、特別支援の問題 |
| ・面接 | … | 個人面接
場面指導（例）「子どもがふざけてガラスを割った時、どのように指導するか」の課題に対し、具体的に指導の実演をする。 |
| ・小論文、適性検査 | | |

【見直し】

<1次選考>

- | | | |
|-------|---|------------------------------------|
| ・一般教養 | … | 「時事問題」、「人文・社会・自然科学」の各分野の問題 |
| ・教職専門 | … | 教育原理、教育心理 |
| ・専門教科 | … | 小学校、中学校・高等学校の各教科、特別支援学校の校種別・教科別の問題 |

<2次選考>

- | | | |
|-----------|---|---|
| ・面接 | … | 個人面接
集団討論（例）「子どものいじめをなくす学級づくり」をテーマに、グループ（6人程度）で討論する。 |
| ・小論文、適性検査 | | |

○試験問題

- | |
|--|
| ・これまで「2次選考」で実施していた専門教科を、「1次選考」で受験者全員に実施する。 |
| ・「一般教養」では教員としての幅広い知識や教養を、「専門教科」では各校種・各教科に即した専門性を問う問題を出題する。 |

- ・「一般教養」の出題内容
 - *「時事問題」、「人文・社会・自然科学」の各分野の問題を出題する。
- ・「専門教科」の出題内容
 - *各校種・各教科に即した専門性の高い問題、授業づくり・指導方法に関する問題等を出題する。
 - *「小学校」受験者に対し、「ピアノ演奏」に加え、「水泳（25m程度）」の専門実技を課す。
- ・体力テストの廃止

○「1次選考」の合否判定

- ・「一般教養」、「教職専門」の両方の基準点に達した者のうち、専門教科等の点数順に、成績上位者を選考する。
- ・1次選考の「一般教養」・「教職専門」（1次選考の一部）の免除者は、基準点に達したものとする。

○「1次選考」免除の条件

「他県現職」、「講師経験」、「英語・芸術・国際貢献活動」による受験者の「一般教養」・「教職専門」（1次選考の一部）を免除するとともに条件を変更する。

- ・他県現職の条件
1年以上の教職経験がある者
(ただし、H27年度教員採用試験以降は順次、教職経験年数を3年まで延長する。)
- ・講師経験の条件
前年度教員採用試験の2次選考を受験した者で、講師経験がある者
(ただし、H25年度教員採用試験で、2次選考を受験した者については、H28年度教員採用試験まで適用する。)
- ・国際貢献活動の条件
2年間の国際貢献活動の内容により免除する。
- ・英語、芸術の条件
1次選考の一部を免除とする。

○面接方法

受験者のコミュニケーション能力や実践力を評価するため、集団討論を実施する。

- ・個人面接に加え、これまで実施してきた場面指導を廃止し、集団討論を課す。

○「2次選考」の合否判定

1次選考の「専門教科」、2次選考の「面接」（個人面接、集団討論）および「小論文」の合計の点数順に、成績上位者を最終選考する。